



多摩商工会議所管内景況調査報告

令和6年 上期調査結果

令和6年 7月

多摩商工会議所

目 次

調査の概要	1
調査事業所の属性	2
調査 1	3
①売上について	
②採算について	
③仕入単価について	
④従業員について	
⑤業界の景気動向について	
⑥資金繰りについて	
⑦金融機関の融資状況について	
調査 2	8
①売上見通し	
②採算見通し	
③仕入単価の見通し	
④従業員の見通し	
⑤業界の景気動向見通し	
⑥資金繰りの見通し	
⑦金融機関の融資状況見通し	
調査 3	新型コロナウイルス、賃金引上げ、従業員採用等について 11
調査 4	今後の景気対策等についての主な意見、要望 13
付 録	令和6年 上期 多摩商工会議所管内景況調査 15

調査の概要

◇調査目的 多摩市の景気動向を把握し、今後の意見具申・要望活動に役立てるために実施する。

◇調査期間 令和6年6月5日～令和6年7月1日

◇調査事業所 調査数 191社 有効回答数 105社(55.0%)

(内訳)

製造業11社・建設業16社・不動産業8社・サービス業26社・卸売業7社・飲食業12社

小売業16社・運輸業9社 以上105社

◇調査方法 無作為抽出による事業所に対して、書面調査およびヒアリング

◇調査内容 ①令和6年1月～6月の状況について、令和5年1月～6月と比較して調査した。

②令和6年1月～6月と比較して、令和6年7月～12月の先行き見通しについて調査した。

③新型コロナウイルスの影響、賃金引上げ状況、従業員採用について調査した。

④今後の景気対策等についての意見・要望を調査した。

※グラフの数値は小数点を四捨五入しており、合計100%にならない場合があります。

◇調査結果

・令和6年上期の景況については、売上は回復傾向で、コロナ前の売上の80%以上に戻った企業は全体の79%あった。まったく戻らない企業は2%であった。景気の動向をみると「好転」の回答が18%あるものの、「悪化」が27%あり、やや厳しい状況となった。

・令和6年下期の先行き見通しでは、「好転」が18%あるものの、引き続き全体的な価格高騰の影響もあり、全体の27%の企業から「悪化」の回答があった。

・従業員の採用・不足状況については、採用し充足した企業は37%あるものの、採用してもまだ不足している企業は29%。採用できず不足している企業は24%あった。

・経営課題では、「原材料の高騰」が49%の企業から回答があった。

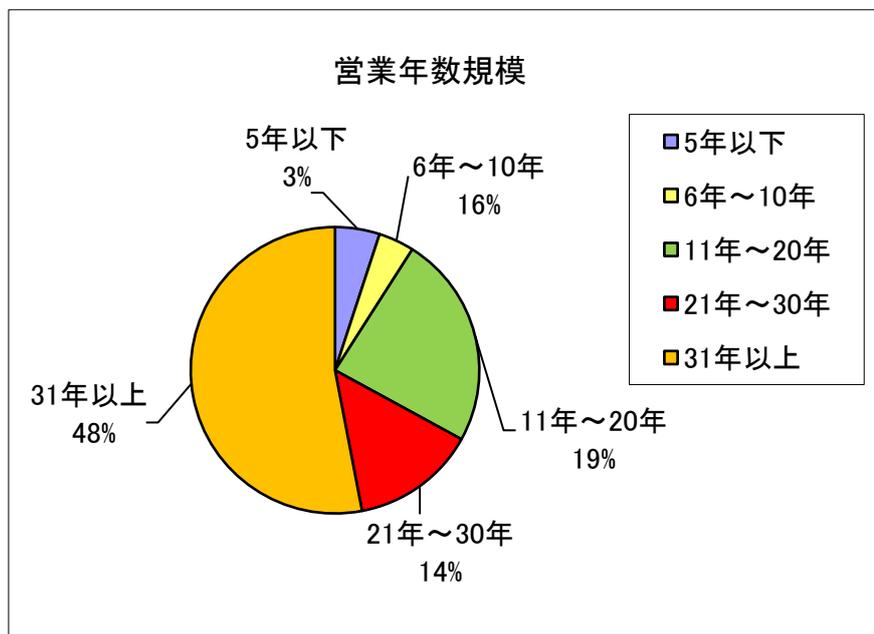
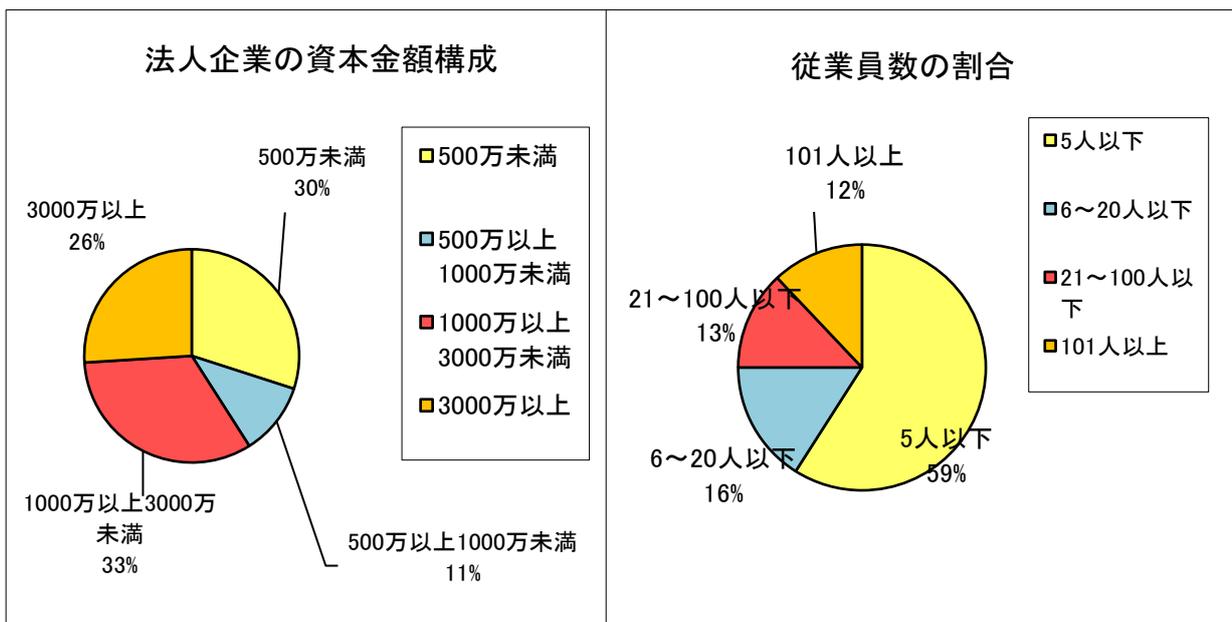
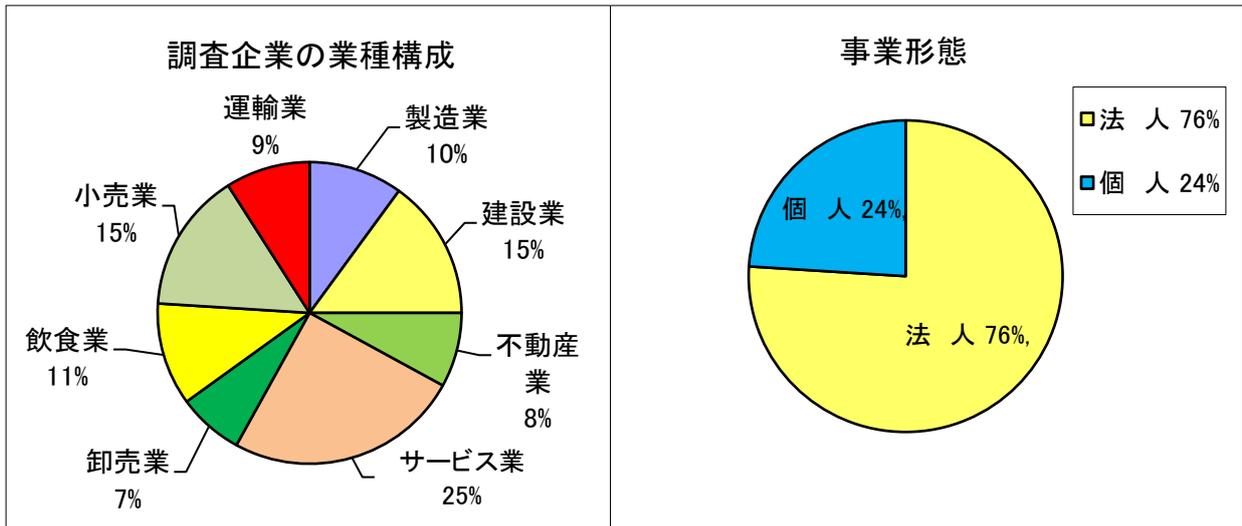
・従業員の給与の賃上げ状況については引き上げた企業が81%あった。ほとんどの企業が経営環境があまりよくない状況にも関わらず、賃金を引き上げていた。

平均の賃金引き上げ率は4.97%であった。

・今後の景気対策等についての主な意見として、「販売価格を上げたものの、円安の影響で利益が減少している。」「業務デジタル化を進めている。」「賃金アップが個人の消費につながると思う。」「物価や光熱費の高騰で今年も販売価格を値上げした。

しかし大幅な値上げはできていない」等の意見が寄せられた。

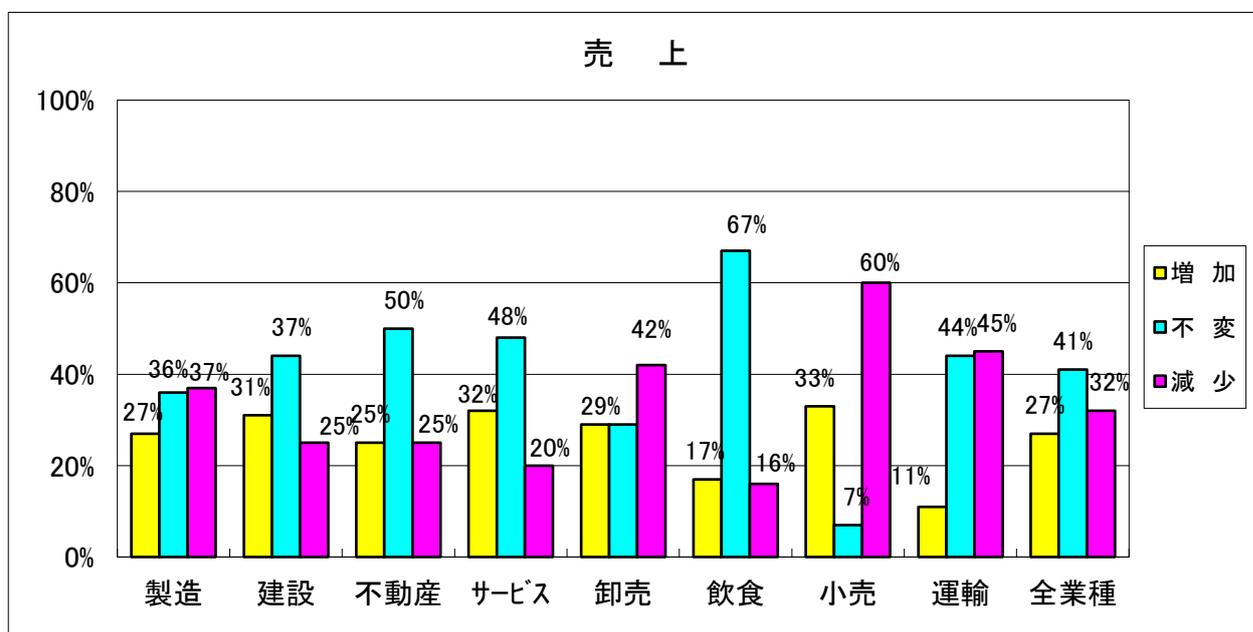
◇調査事業所の属性



調査1 令和6年1月～6月の水準が、昨年同時期と比べてどのような推移をしているかを①売上 ②採算 ③仕入単価 ④従業員 ⑤業界の景気動向 ⑥資金繰り ⑦金融機関の融資状況の7項目について調査した。各項目について、業種別で集計したところ次のとおりとなった。なお、⑤業界の景気動向については過去の調査結果と令和6年下期の見通しについて比較表示してある。

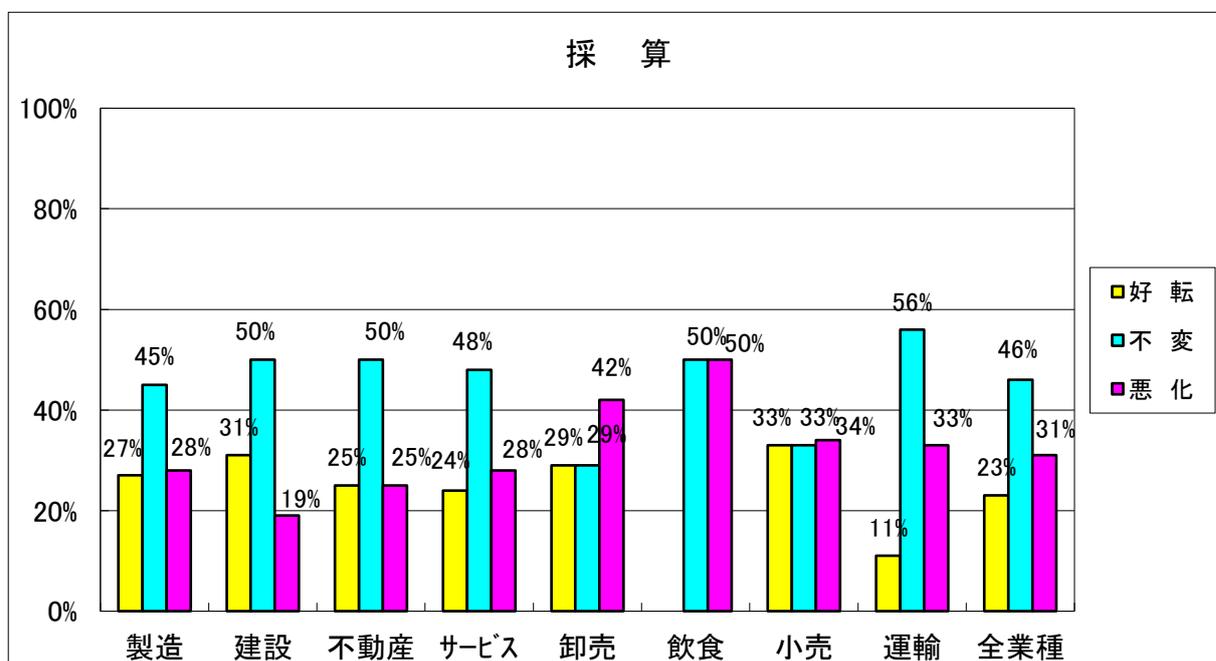
①売上について

全体的でみると昨年より「増加」が27%（前回30%）、「減少」は32%（前回32%）と、前回調査に比べると売上の増加している企業が減少している。売上が特に増加したのは、小売業、サービス業で、売上が特に減少したのは、小売業、運輸業であった。小売業は増加も減少も多く、不変が少なかった。



②採算について

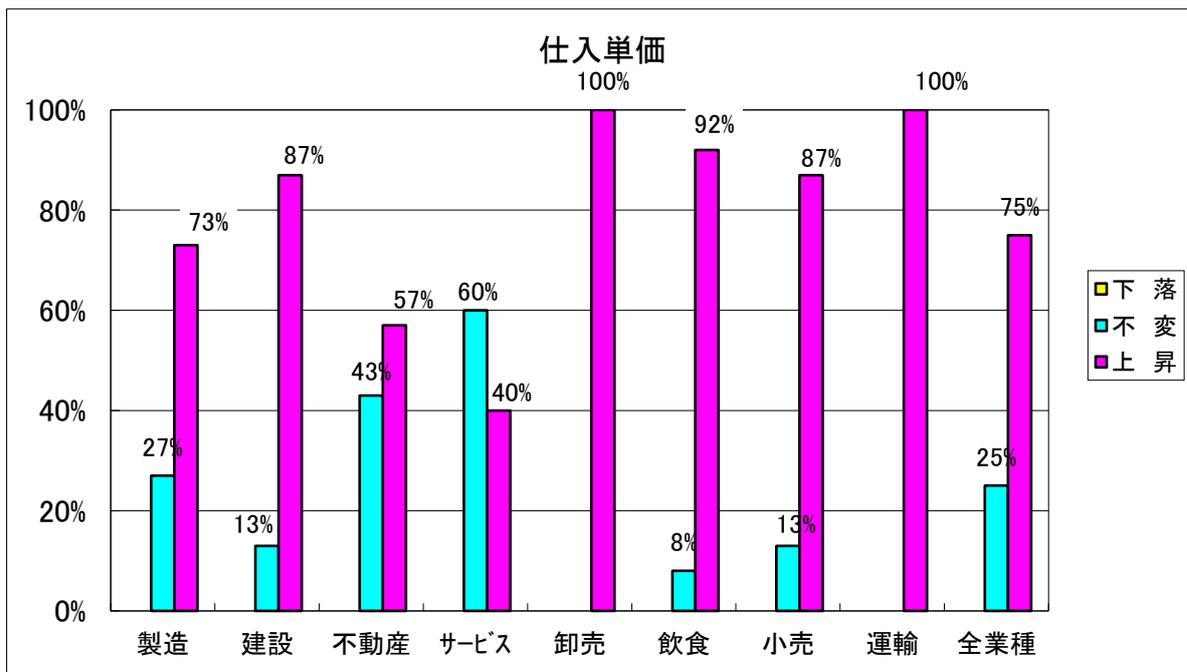
全体でみると、「好転」23%（前回18%）、「不変」46%（前回41%）、「悪化」31%（前回41%）であった。業種では飲食業（50%）、卸売業（42%）が「悪化」大きく、厳しい状況である。



※グラフの数値は小数点を四捨五入して表示しています。

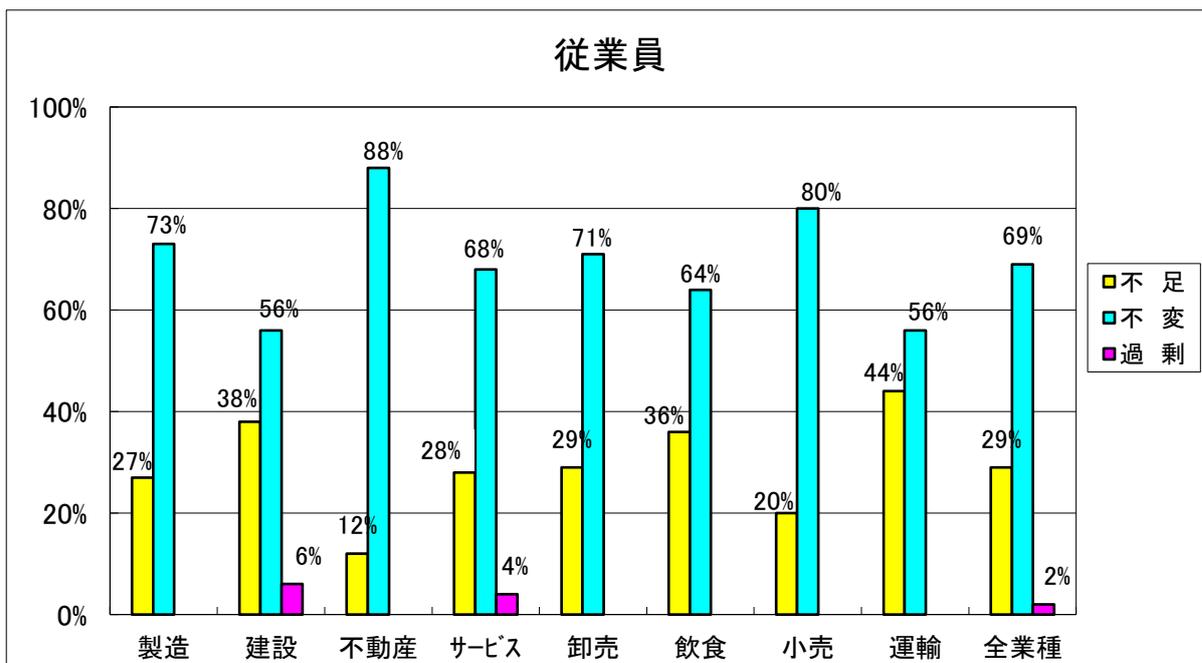
③仕入単価について

全体的には「不変」が25%「上昇」が75%であった。仕入単価の「上昇」顕著なのが、運輸業100%（前回100%）、卸売業100%（前回75%）、飲食業92%（前回92%）であった。

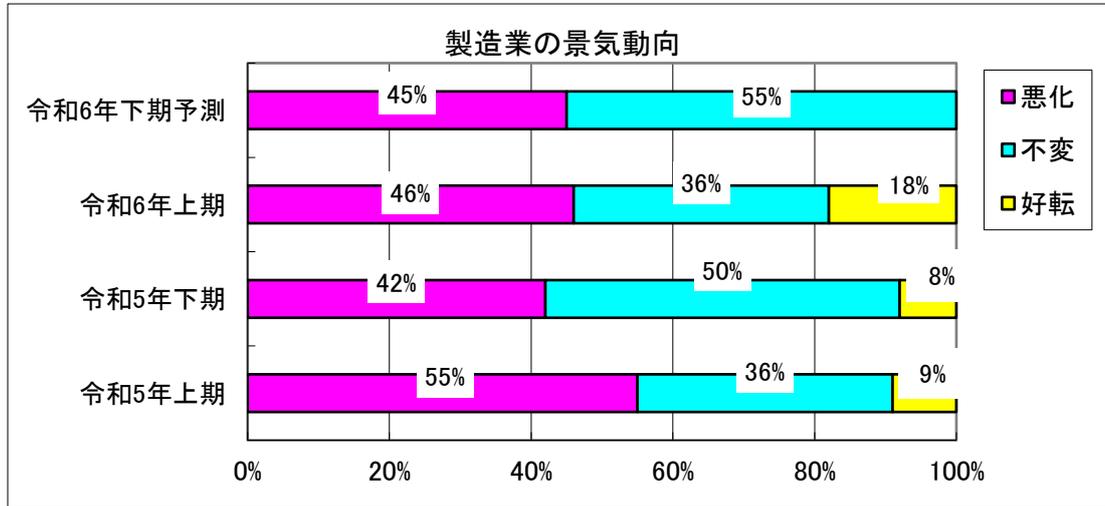


④従業員について

全体的にみると、企業の69%から「不変」と回答があった。そのような中、前回調査と同様に運輸業は変わらず不足(44%)の状況が続いている。また、建設業が38%、小売業が36%不足している。

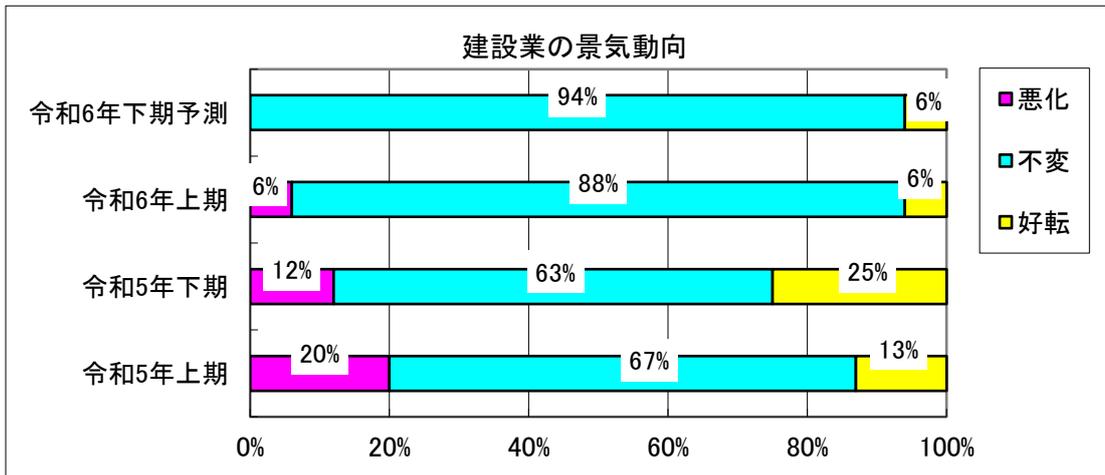


⑤業界の景気動向について



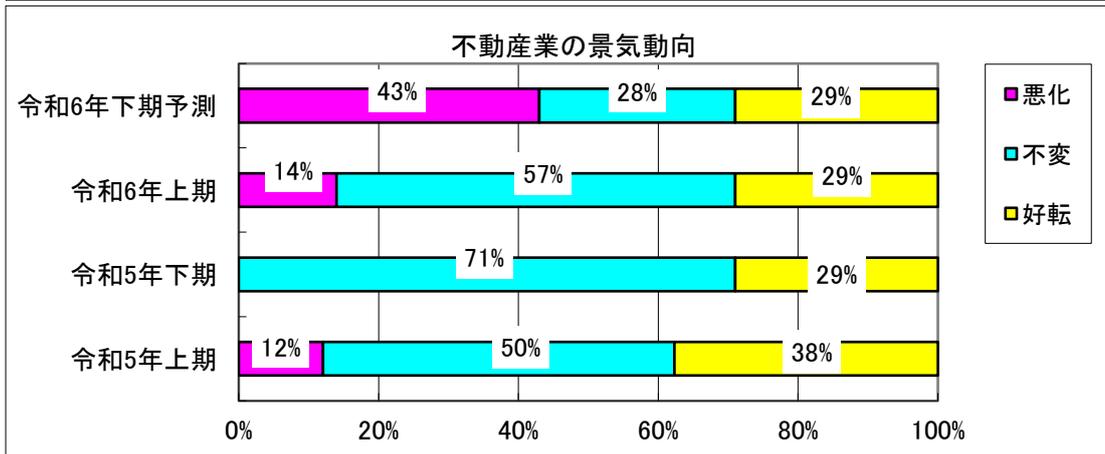
■製造業

令和6年上期では、「好転」18%あるものの、46%が「悪化」と回答があった。令和6年下期の見通しも「好転」がなく、「悪化」45%で引き続き厳しい状況が予想される。



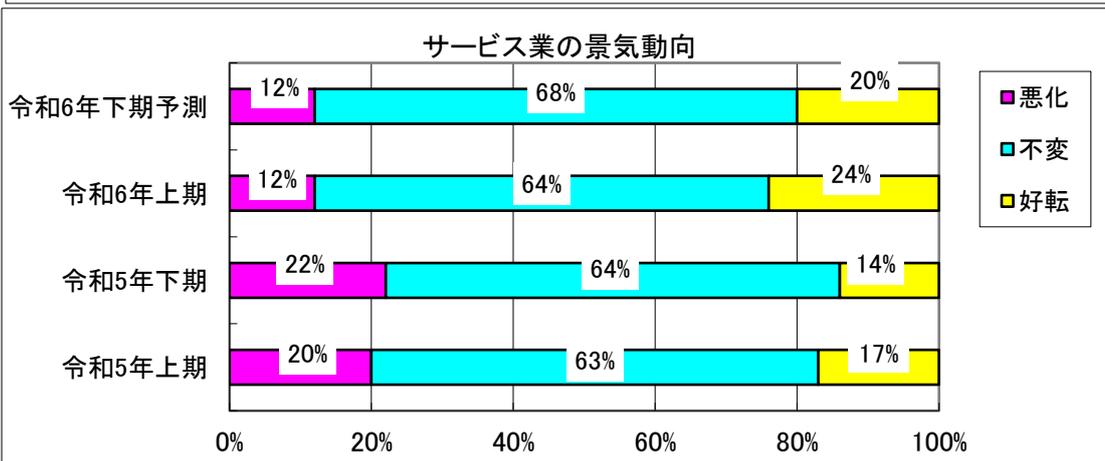
■建設業

令和6年上期は、「好転」「悪化」ともに6%と減少し、景気は横ばいとなった。令和6年下期では、「好転」6%、「悪化」はない見通しで、景気がやや好転する予測である。



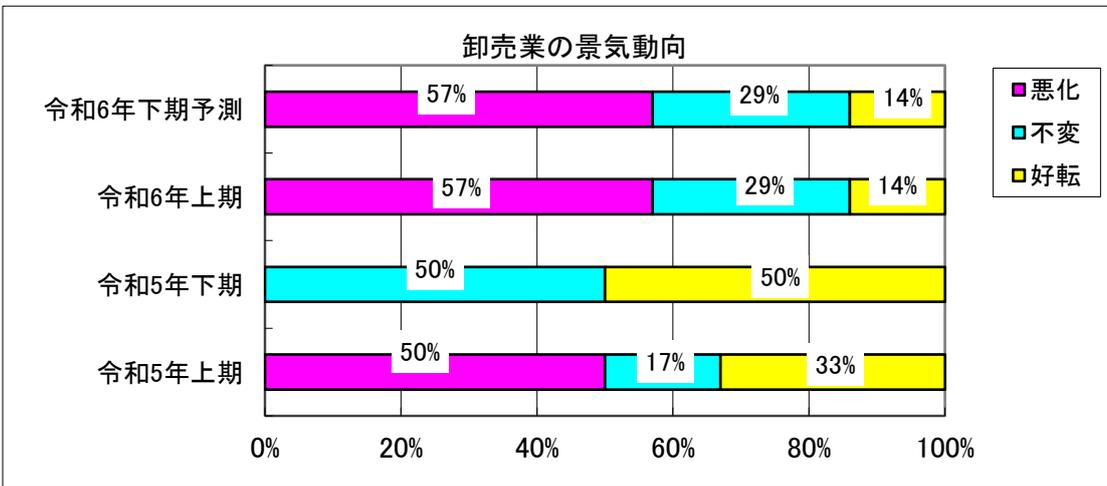
■不動産業

令和6年上期は、「好転」が29%、「悪化」が14%となり、景気の改善傾向が続いている。しかし令和6年下期では、「好転」が29%、「悪化」が43%の見通しで、景気が大幅に悪化する予測である。



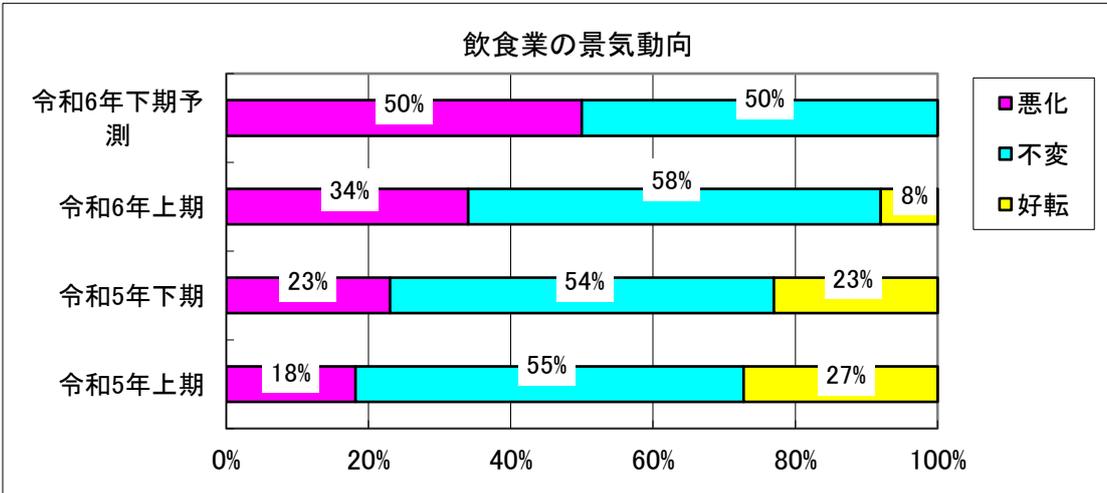
■サービス業

令和6年上期では、「好転」が24%、「悪化」が12%で、景気は改善している。令和6年下期も、「好転」が20%、「悪化」が12%の見通しで、引き続き景気が改善する予測となっている。



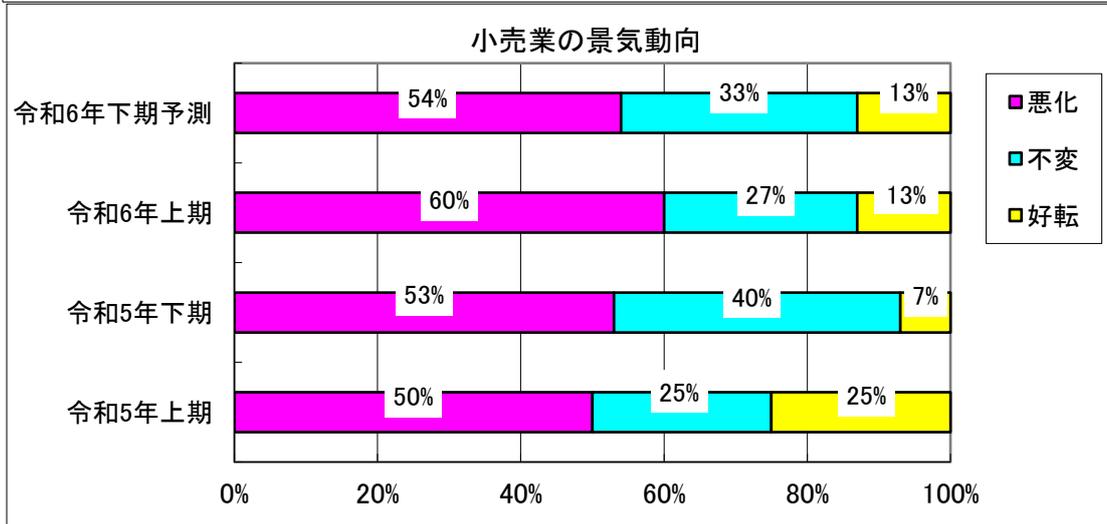
■卸売業

令和6年上期は「好転」が14%、「悪化」は57%となり、景気が大幅に悪化している。令和6年下期も、「好転」14%があるものの、「悪化」も57%あり引き続き、厳しい見通しとなっている。



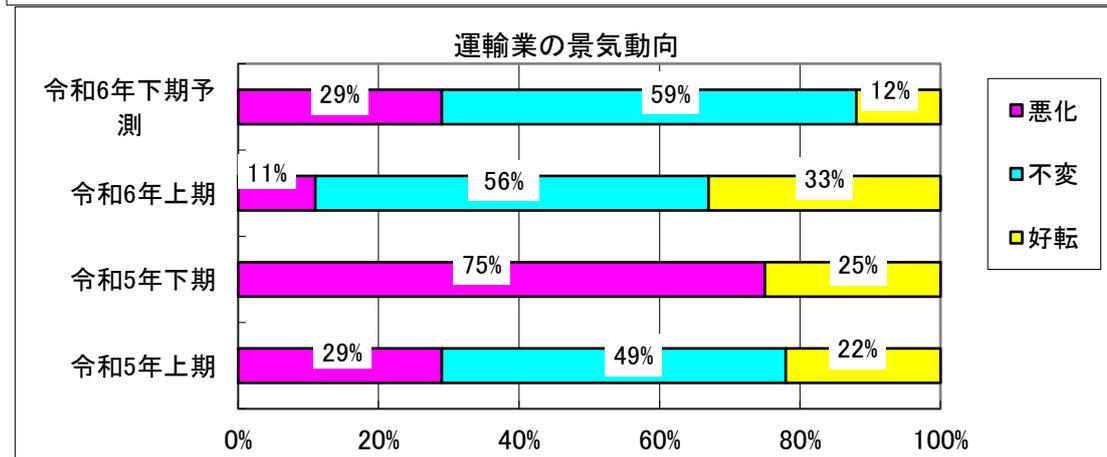
■飲食業

令和6年上期では「好転」が8%、「悪化」が34%と景気が悪化している。令和6年下期も好転がなく、引き続き厳しい見通しとなっている。



■小売業

令和6年上期は、「好転」13%、「悪化」は60%と引き続きに生活様式の変更を受けている。令和6年下期の見通しは「悪化」が54%とかかわらず厳しい見通しとなっている。

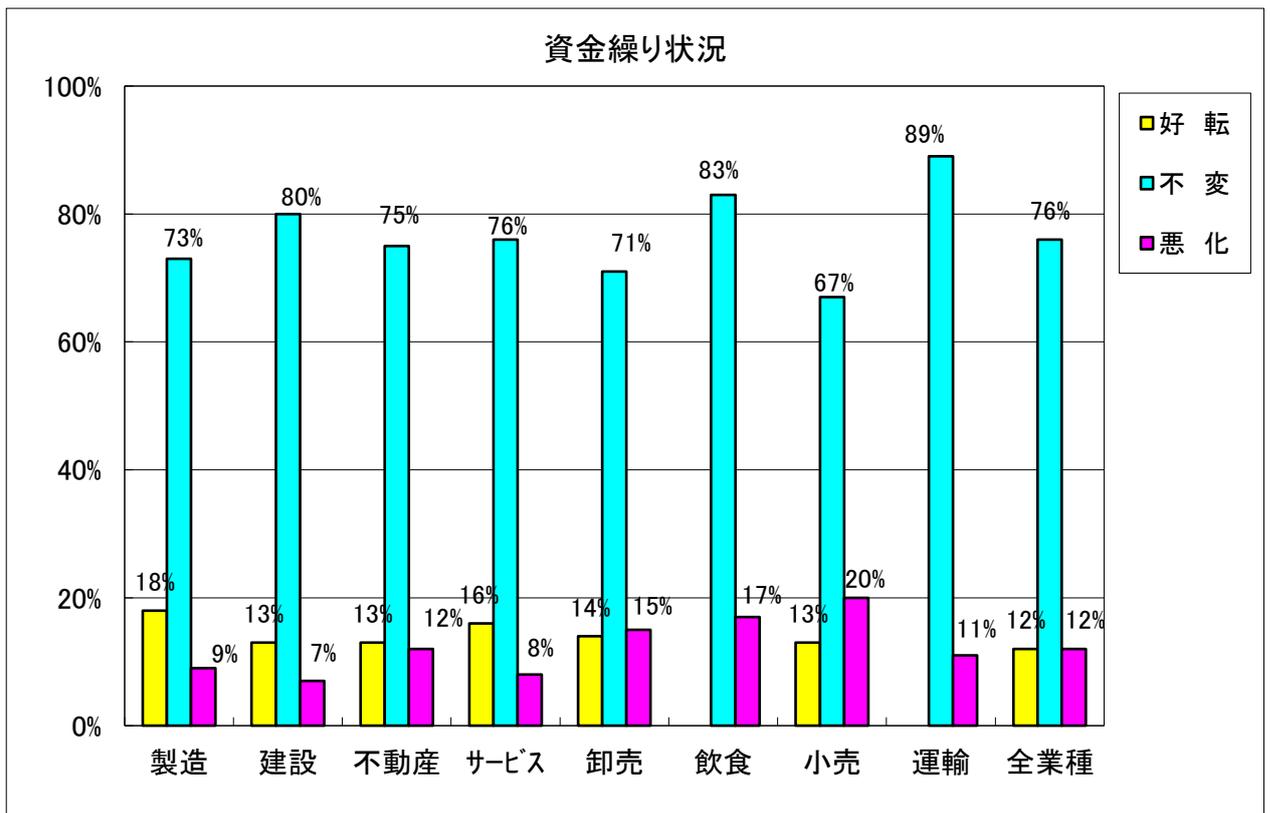


■運輸業

令和6年上期は、「好転」33%あるものの、「悪化」11%と景気が改善している。令和6年下期は好転が12%あるものの、「悪化」が29%と厳しい見通しとなっている。

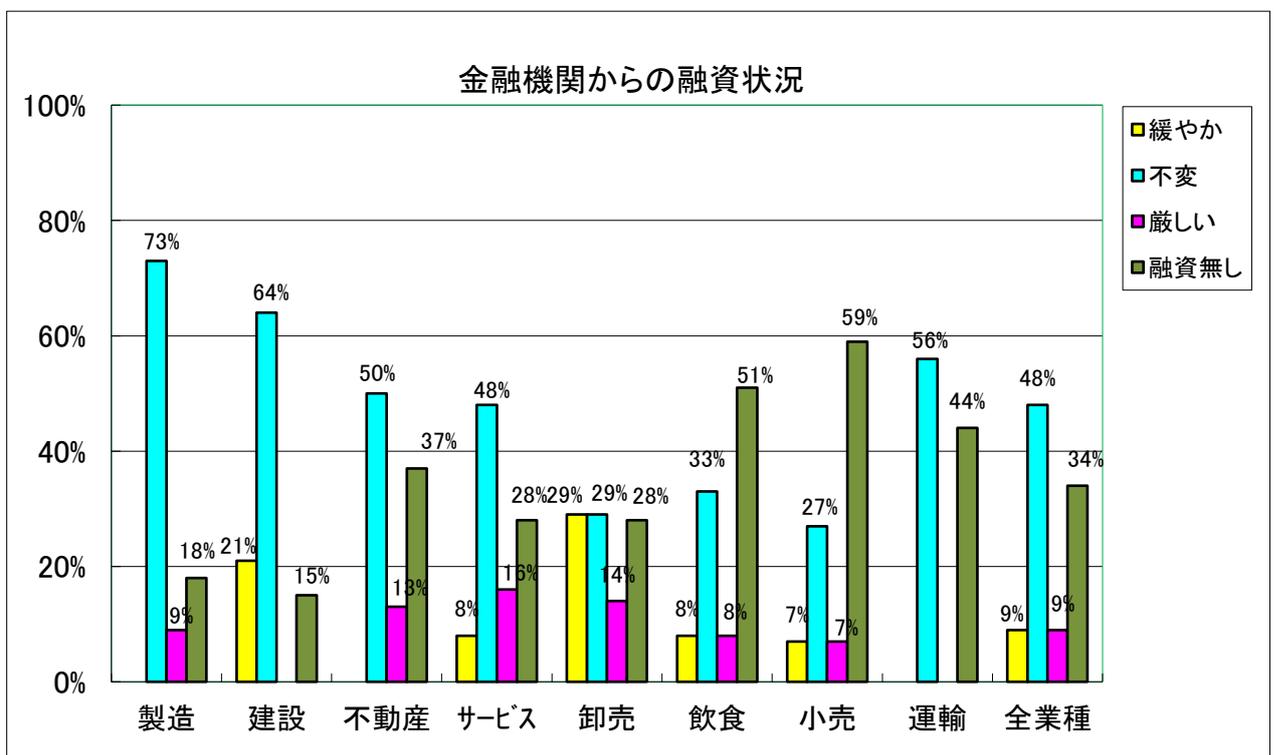
⑥資金繰りについて

全体でみると前回調査と比較して資金繰りに改善傾向がみられた。「悪化」が12%（前回20%）、「不変」が76%（前回74%）、「好転」が12%（前回6%）と回答している。業種でみると小売業20%・飲食業17%と悪化が多かった。



⑦金融機関の融資状況について

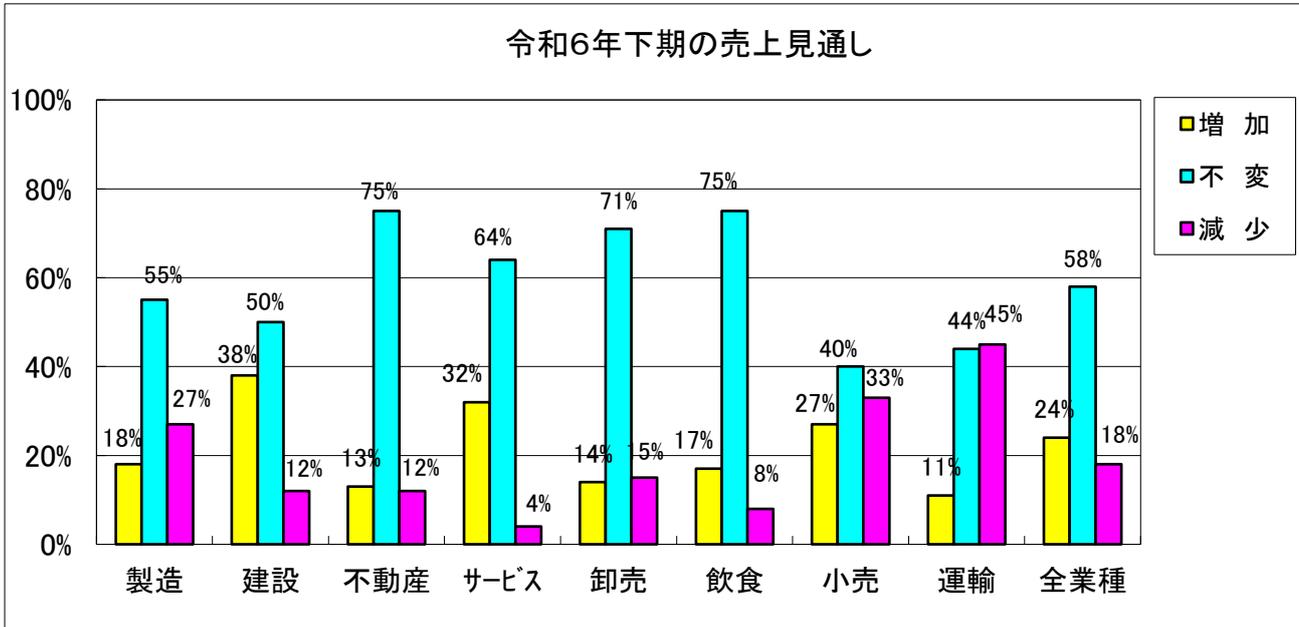
全体的にみると「不変」が48%（前回52%）、「融資無し」が34%（前回30%）、「厳しい」が9%（前回10%）、「緩やか」が9%（前回8%）であった。



調査2 令和6年1月～6月を基準とした令和6年7月～12月の先行き見通しについて調査した。調査項目は調査1と同じ項目である。⑤業界の景気動向についてはすでに5～6ページで表示してあるのでここでは省略する。

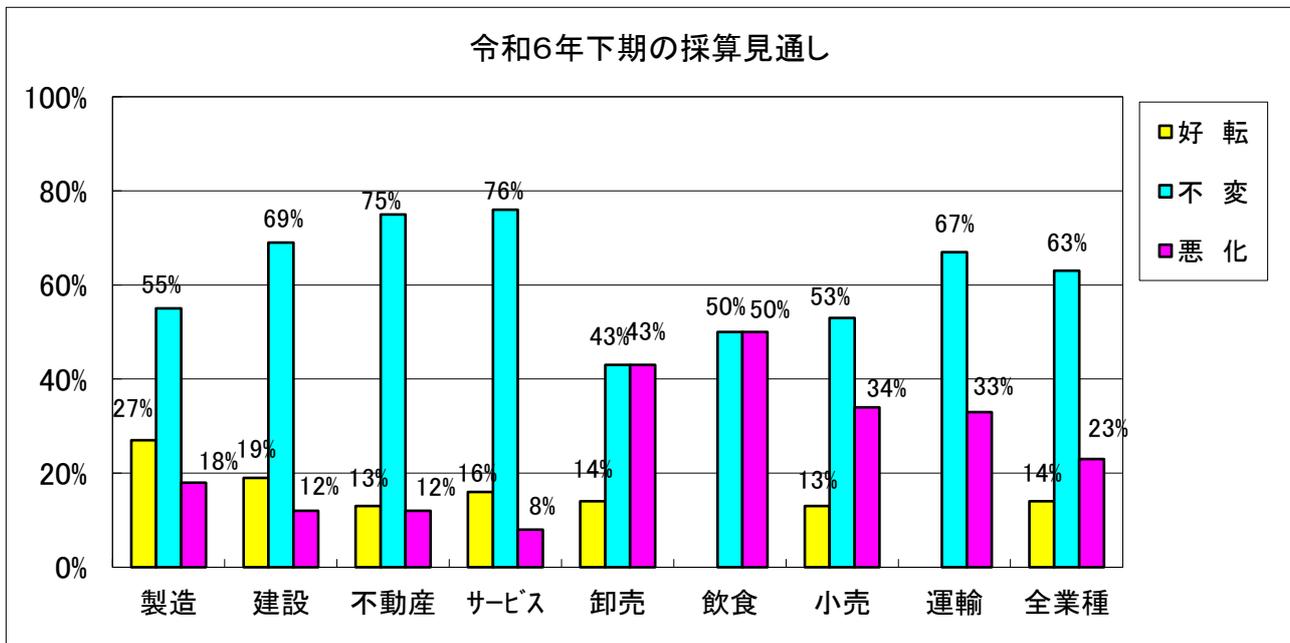
①売上見通し

全体でみると「増加」24%（前回21%）、「減少」18%（前回28%）、「不変」58%（前回51%）となっている。業種別でみると「増加」の見通しが強いのが建設業（38%）、一方、「減少」の見通しが強いのが運輸業（45%）、小売業（33%）であった。



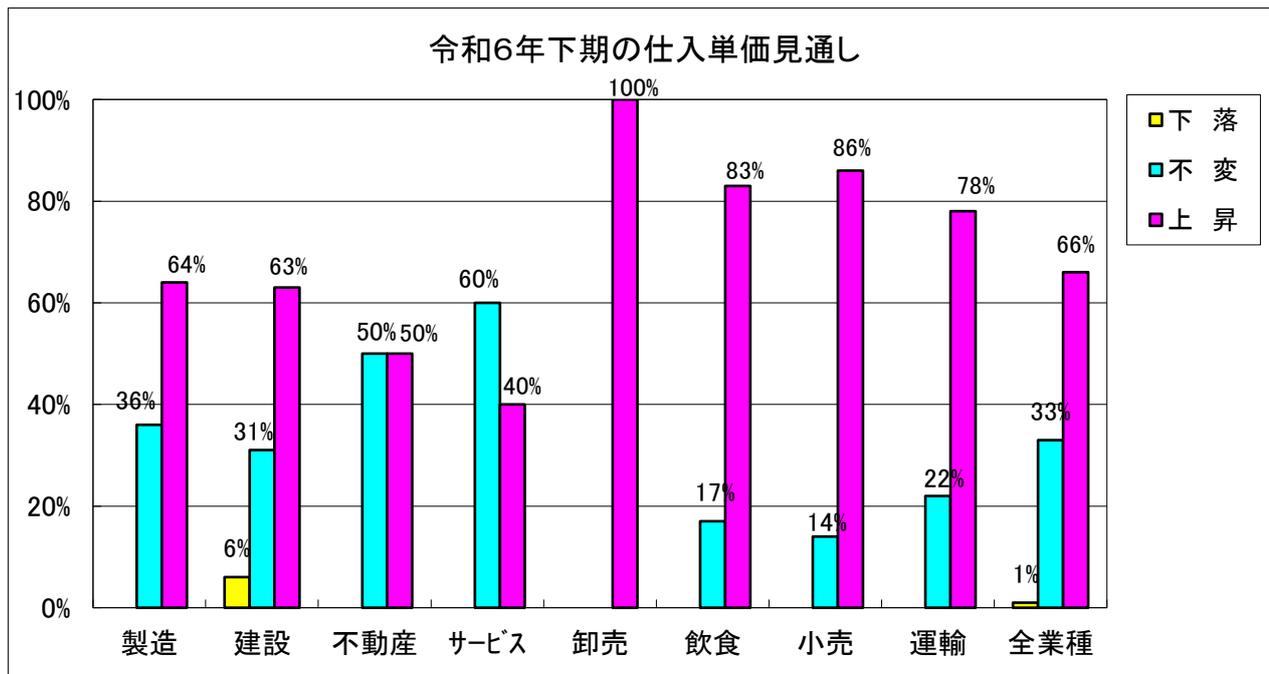
②採算見通し

全体的にみると、「好転」が14%（前回17%）、「不変」が63%（前回49%）、「悪化」が23%（前回34%）となり依然と厳しい状況が続いている。業種でみると、「好転」の見通しが多いのが製造業（27%）で、「悪化」の見通しが多いのが飲食業（50%）、卸売業（43%）となっている。



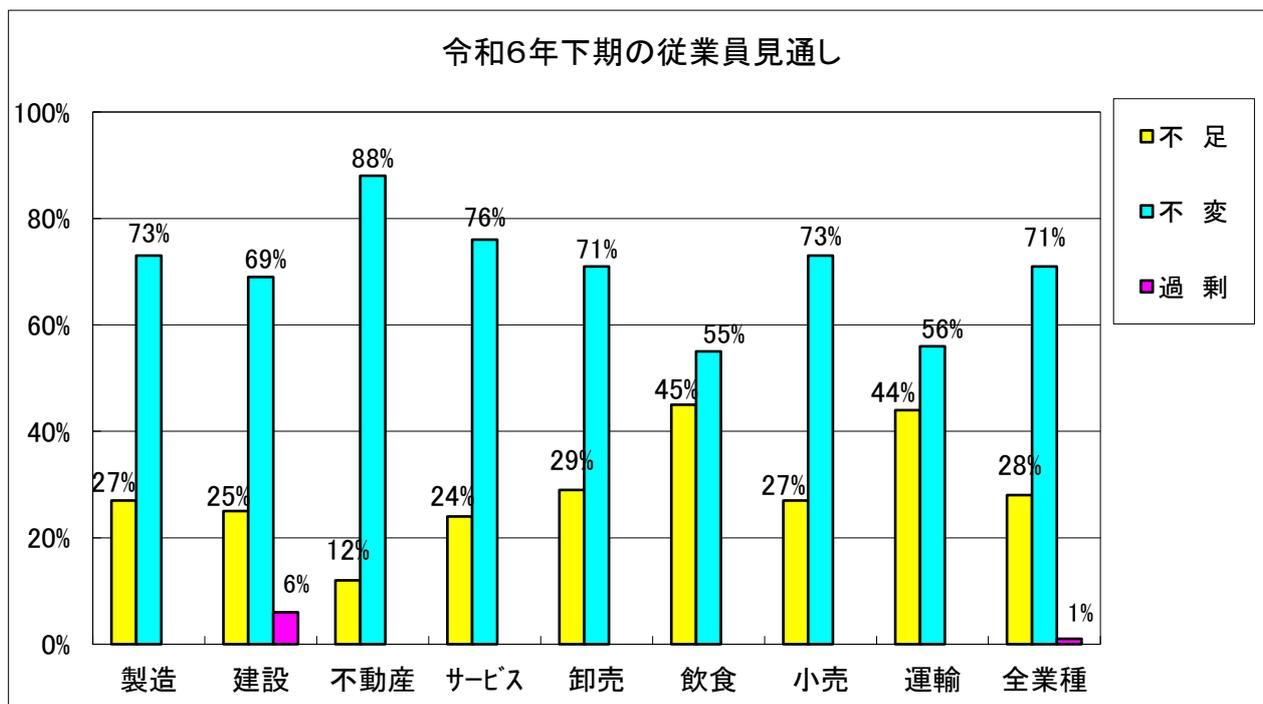
③仕入単価の見通し

全体的には、「不変」が33%（前回41%）、「上昇」が66%（前回57%）の見通しであった。業種別では「上昇」が高いのは卸売業100%、小売業86%、飲食業83%高くなる見通しとなっている。



④従業員の見通し

全体的には、「不足」が28%（前回26%）、「不変」が71%（前回70%）、「過剰」1%（前回4%）であった。前回調査と比べると従業員の「過剰」見通しが減少した。業種別でみると「不足」との見通しが高いのが飲食業45%（前回23%）、運輸業44%（前回75%）であった。

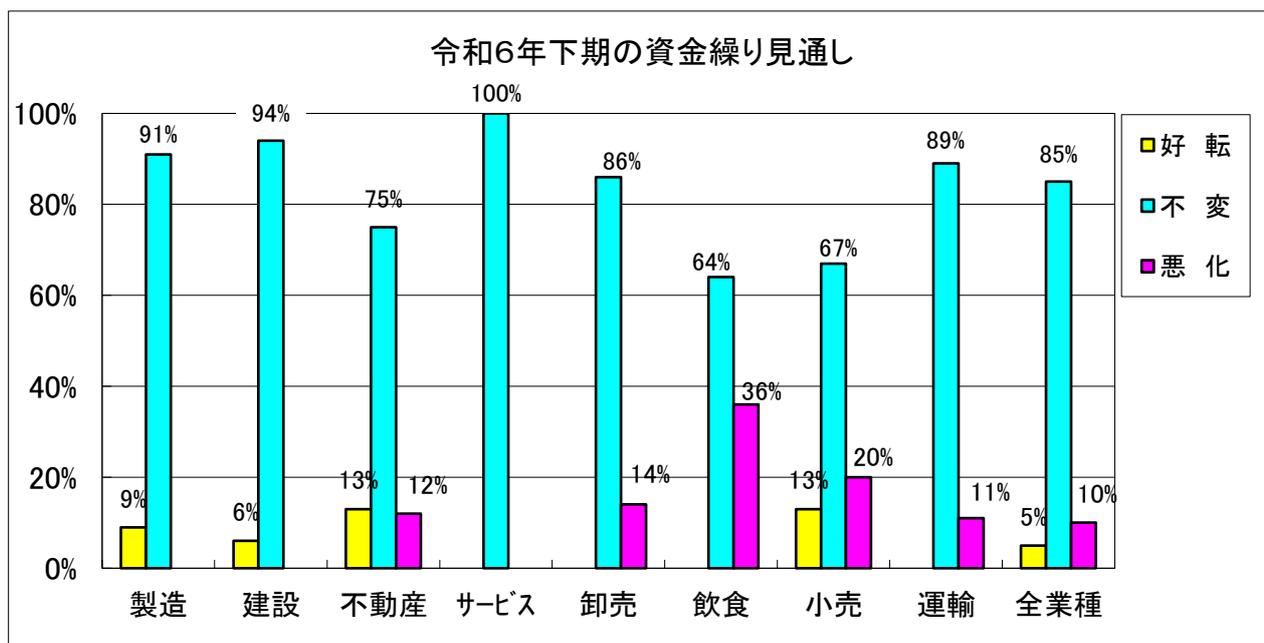


⑤業界の景気動向見通しについて

P5～6を参照。

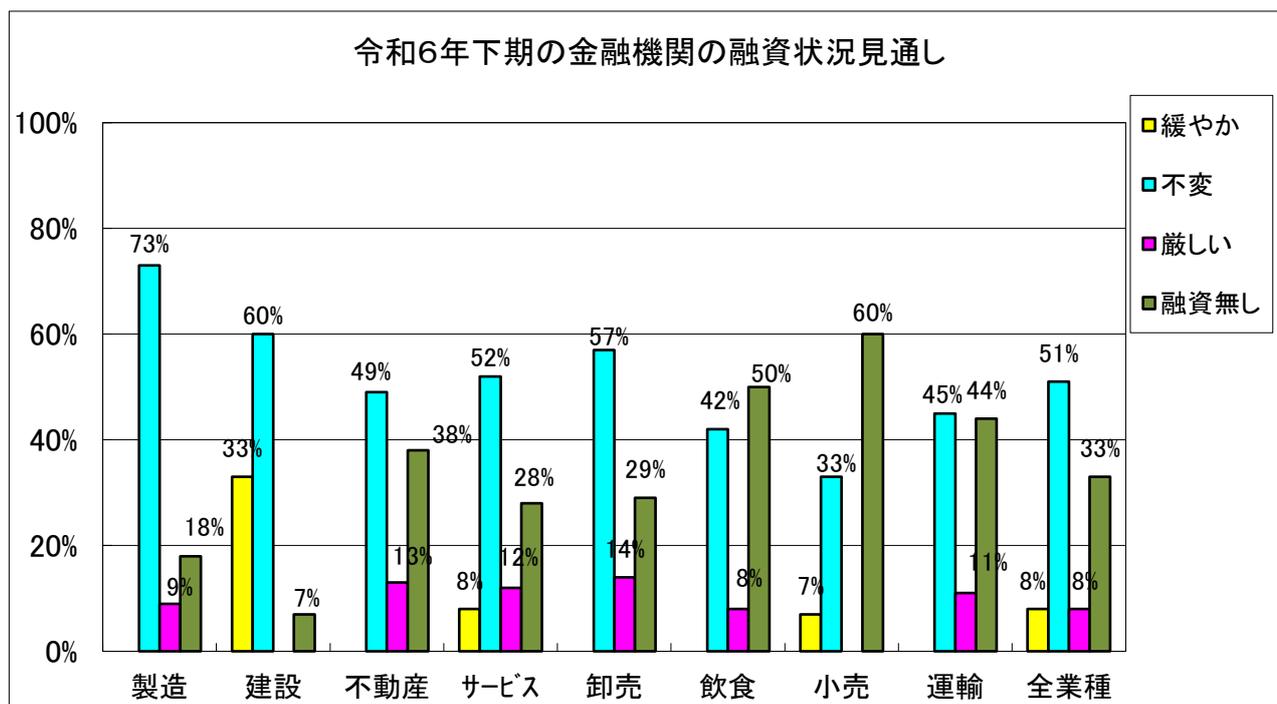
⑥資金繰りの見通し

全体的に「不変」が85%（前回80%）、「悪化」が10%（前回16%）、「好転」が5%（前回4%）となり、資金繰りは前回よりやや改善しているものの、やや厳しい状況が続いている。



⑦金融機関の融資状況見通し

全体的には「不変」(51%)が多く、続いて「融資無し」(33%)、「緩やか」が(8%)「厳しい」(8%)となっている。

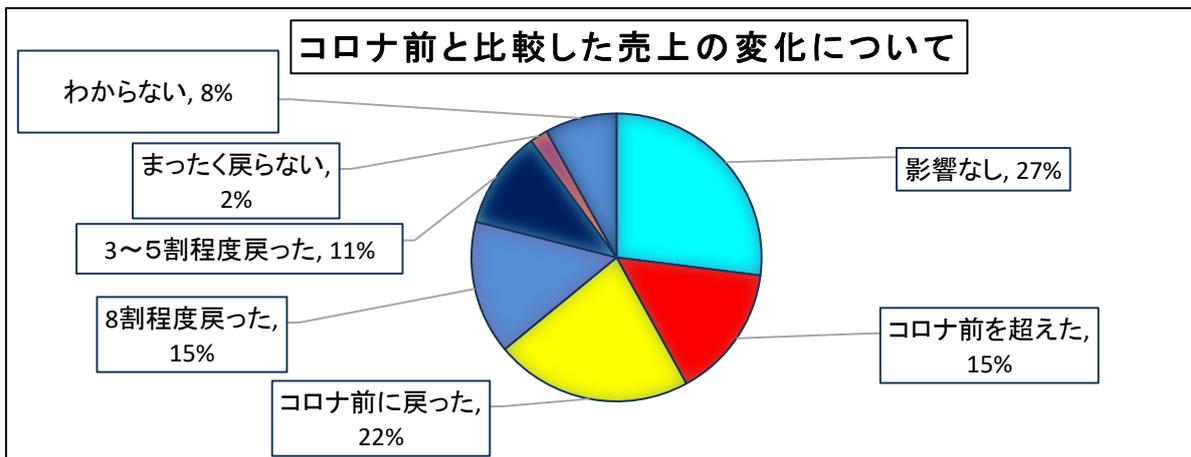


調査3 新型コロナウイルスの影響・従業員の賃上げ状況・採用・不足状況等について

① 自社事業はコロナ前と比べてどの程度回復したと感じますか。

コロナ感染による売上が「まったく戻らない」と回答した企業は全体の2%であった。

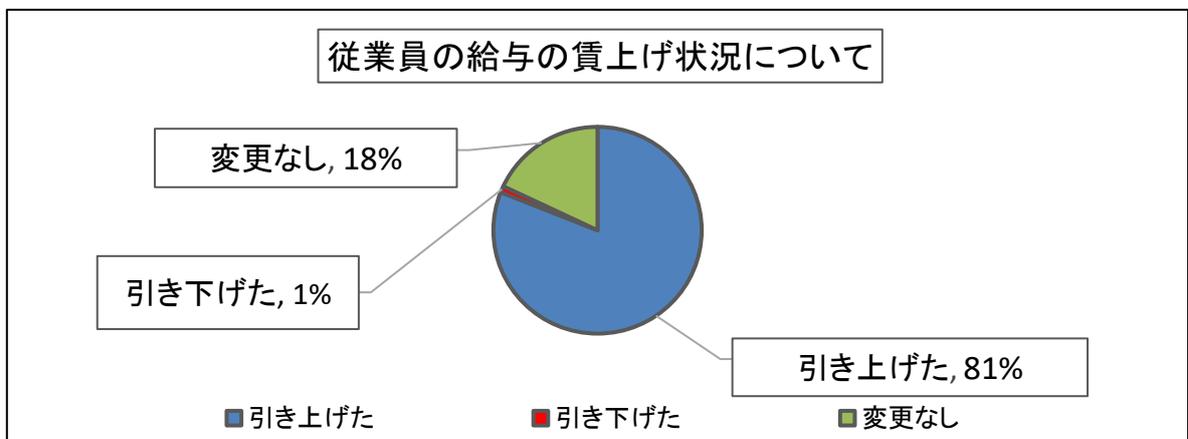
「影響なし」「コロナを超えた」「コロナ前に戻った」「8割程度戻った」の合計が79%(前回74%)であった。



② 従業員の給与の賃上げ状況について

「引き上げた」と回答した企業は全体の81%で一番多く、「変更なし」が18%回答があった。

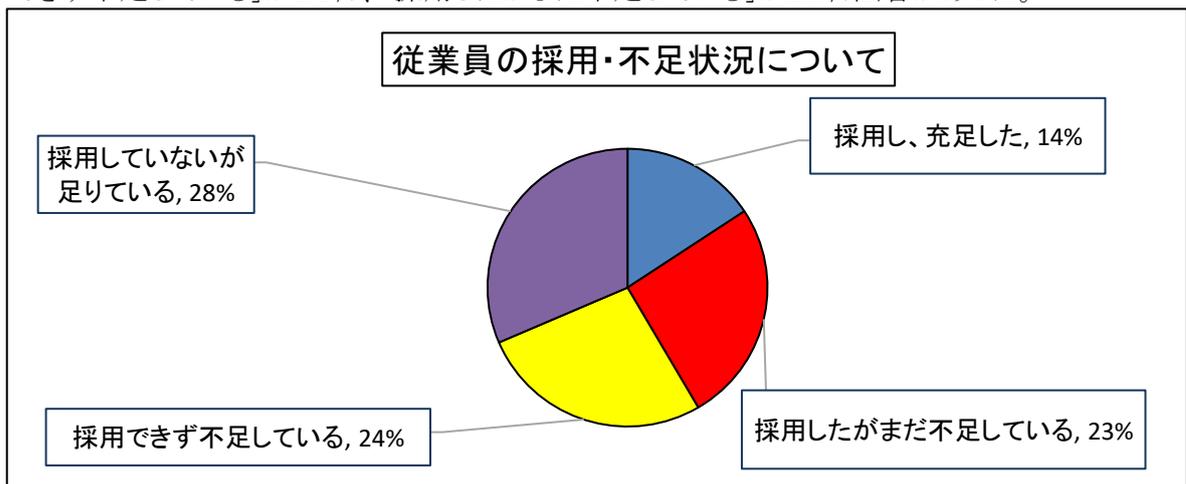
賃金の引上げ率の平均は4.97%であった。



③ 従業員の採用・不足状況について

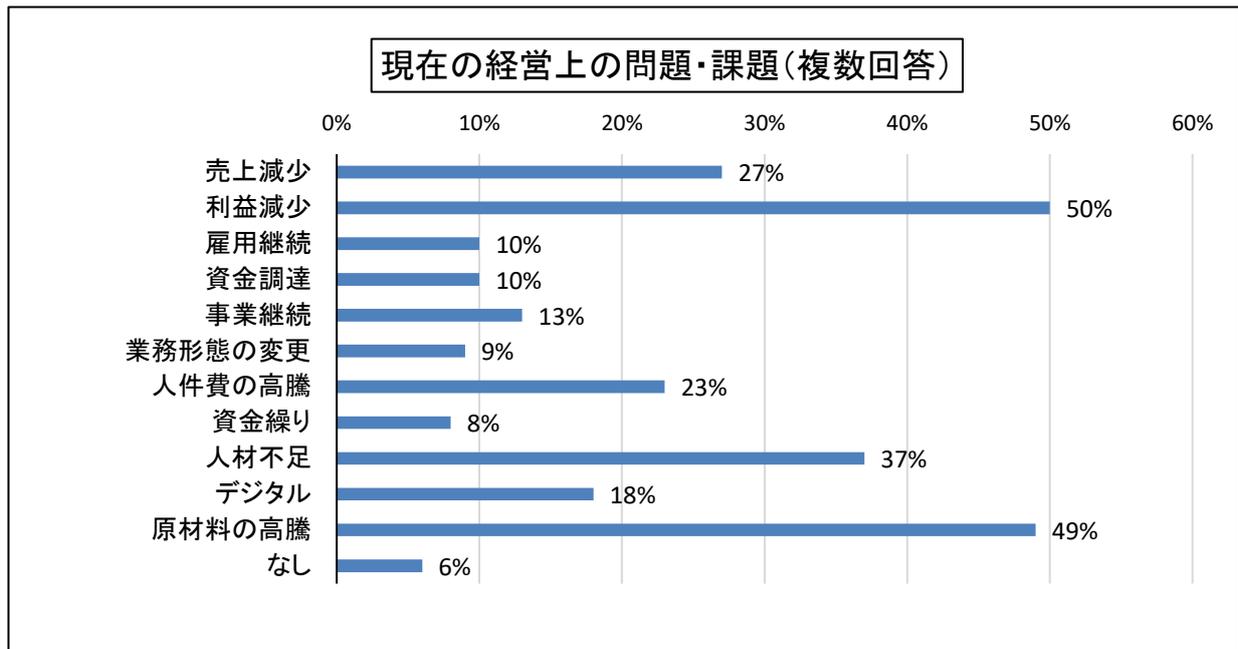
従業員の採用・不足状況は、「採用していないが足りている」が一番多く28%あるものの、「採用

できず不足している」が24%、「採用したがまだ不足している」が23%回答があった。



④ 現在の経営上の問題、課題について

「利益減少」(50%)「原材料の高騰」(49%)がもっとも多かった。次いで「人材不足」
「売上減少」が続いた。



調査4 今後の景気対策等についての主な意見・要望

- 原材料、副資材、運送費等の高騰をユーザーに理解していただき、価格に反映していきたい。(製造業)
- 販売価格を上げたものの、円安の影響で利益が減少している。(製造業)
- 従来 of 事業プラス α の新規事業を行う必要性を感じる。(建設業)
- 今後採用活動の効率化、協力会社や現場や事務所間の情報共有ソフトの活用や、AI導入の施工工事等を検討している。(建設業)
設備関連の市の公共工事が少ない。多い年と少ない年の差が大きく、平準化してほしい。働き方改革で
- 一律に仕事が少なくなっているが、土日等も含めてたくさん働きたい人もいるはずで、その人のやる気をなくさせてしまう恐れがある。(建設業)
- 物価上昇に対する対策をお願いしたい。特に、建築資材の値上がりで建築費をかなり上昇させている。(不動産業)
- 保育に関しては待機児童数も減少し、今後はどのように対策を練るかが重要。聖蹟桜ヶ丘、鶴牧では新しい需要がありながら、市が動きをとらないのが非常に納得のいかないところである。(サービス業)
- コロナの影響は大変でやっと少しずつ業者や百貨店、スーパーが動き始めている。都内の同業者が営業をやめている所もあるため、仕事はまわってきている。(サービス業)
- 賃金のアップが個人の消費につながると思う。(サービス業)
- 物価や光熱費の高騰で今年も販売価格を値上げした。令和6年下期は採算よくなる見込みである。しかし、大幅な値上げはできていない。(サービス業)
- 政府の経済対策によって、逆に小規模事業者の自社が厳しい状況になった。対策を検討中。(サービス業)
- 高齢で車の運転をやめる人が増加していて、移動手段がない人が増えている。ミニバスのエリアや本数を増加してほしい。(サービス業)
- 顧客の給料が上がらないと自社の売上も増加しない。会社員の給与を上げてほしい。諸外国は賃金が上がっているのに日本だけが上がらないのは不思議である。(サービス業)
- 景気が上昇していると思えず、日々の生活が厳しい。仕入は値上がりしているが、販売価格に転嫁できず何とか必死にやりくりしている。リピーター客の存在が心強い。(卸売業)
- 原材料の値上げによって販売価格を上げざるを得ないが、取引先に理解してもらうのが大変である。(卸売業)
仕入から販売、物流までを自社ですべて行うメリットを生かし事業を拡大させたい。仕入先の開拓は前職
- の経験を活かし、東南アジアをメインに柔軟な思想と行動力で慎重かつ大胆に取り組みたい。情報をいち早く捉え、ニーズのある商品を販売していきたい。(卸売業)
- 業務デジタル化を進めている。(飲食業)
- 材料費の高騰で経営が厳しい。仕入ルートの変更や、事業転換を模索している。(飲食業)
新札が発行されるため、券売機が使用できなくなり、中古を購入したが、非常に高価であった。仕入単価
- 上昇の影響は例えば100円ショップにも迫っていて、100円ではなく200円の商品が増加している。【量も減少している】(飲食業)

- 20代と60代は客数と客単価が減少している。客層の切替え実施中で効果が出ているが、物価の上昇が利益を帳消しにしている。(飲食業)
- 消費者は物価の上昇により、思った以上に消費者は節約志向にある。仕入先を変えて原材料費を抑えたり、全般的な見直しが急務である。(小売業)
- 多摩市全体が盛り上がるような施策(過去の花火大会など)の開催を希望している。(小売業)
- 極端な円安で手の打ちようがない。(小売業)
- 利益率の低い業務の削減を検討している。(運輸業)
- 関係機関との連携強化と同時に、営業及び運航範囲の見直しを行いたい。(運輸業)
- 取引先である大手スーパーの業績不振の影響を受け、今後は明確な見通しが立てにくい状況である。(運輸業)

付 録

『令和6年上期 多摩商工会議所管内景況調査』

事業所名		営業年数	年
所在地		電 話	()
業種(主たる業種)	・製造 ・建設 ・不動産 ・サービス ・卸 売 ・飲食 ・小売 ・運輸	資本金	万円
事業内容		従業員数	正社員 名、パート等 名

(1) 令和6年上期(1月～6月)の状況について、令和5年上期(1～6月)と比較してお答えください。

項 目	■ 該当をするものに○をつけてください			
①売上	増加	不変	減少	
②採算	好転	不変	悪化	
③仕入単価	下落	不変	上昇	
④従業員	不足	不変	過剰	
⑤業界の景気動向	好転	不変	悪化	
⑥資金繰り	好転	不変	悪化	
⑦金融機関の融資状況	緩やか	不変	厳しい	融資なし

(2) 令和6年下期(1月～6月)の先行き見通しについて、令和6年上期と比べてお答えください。

項 目	■ 該当をするものに○をつけてください			
①売上	増加	不変	減少	
②採算	好転	不変	悪化	
③仕入単価	下落	不変	上昇	
④従業員	不足	不変	過剰	
⑤業界の景気動向	好転	不変	悪化	
⑥資金繰り	好転	不変	悪化	
⑦金融機関の融資状況	緩やか	不変	厳しい	融資なし

(3) 今の御社の業績はコロナ前と比べてどの程度回復したと感じますか。

・コロナの影響なし ・コロナ前を超えた ・コロナ前に戻った ・8割程度戻った
・3～5割程度戻った ・まったく戻らない ・わからない

(4)－1 令和6年の従業員の給与の賃上げ状況について

・引き上げた ・引き下げた ・変更なし ・従業員がいない

(4)－2 (4)－1で引き上げた企業にお聞きます。

・()%引き上げた

(5) 令和6年の従業員の採用・不足状況について

・採用し、充足した ・採用したがまだ不足している ・採用できず不足している
・採用していないが足りている ・従業員がいない

(6) コロナ禍の現在、貴社の経営上の問題、課題についてお答えください。(複数回答)

・売上、受注の減少 ・利益の減少 ・雇用継続 ・資金調達 ・事業継続 ・事業形態の変更
・人件費の高騰 ・資金繰り ・人材不足 ・業務デジタル化 ・原材料の高騰 ・特になし

(7) 今後の景気対策等について、ご意見ご要望をお書きください。

■ご協力ありがとうございました。この調査は、多摩市の景気動向を把握し、今後の意見具申・要望活動に役立つ以外の目的に使用することはありません。